津市立南が丘小学校だより

かがやく未来

2024. 12. 11　NO.39

銀杏の樹から思うこと…

先週のある朝、テレビで明治神宮外苑の銀杏並木が取り上げられていました。以前より神宮外苑の銀杏並木が黄色く色づいた時期に見にいきたいと思っています。前任校にも大きな銀杏の樹があり黄色く色づくのを毎年楽しみにしていました。このように普段、私たちは樹を見るとき、桜も銀杏も松も…当然のことながらほとんどが幹や枝や葉を見ます。ただ、教育という点では枝や葉、幹も大切ですが、根っこがきちんと育っているかということも同時に大切にしていかなければなりません。子どもは大人が思う以上にしっかりと自分の考えをもって生活をしています。その考えを大人がどれだけ普段から丁寧に聞き、その上できちんと話をしているかが大切になってきます。そうやって普段から話を聞いてもらっている子はしっかりと土中に根を張り、何があっても倒れない樹として成長していくのではないかと思います。反対にいつも一方的に叱られるだけで話を聞いてもらうことが少なければ大人を信頼することもせずに、少しのことでたとえ大木に見えても倒れやすい樹となってしまうのではないでしょうか。「教育」とは将来、子どもたちが大人になった時に幸せに生きるためにあると私は思います。

まずは子どもたちから「実は私ね…」と打ち明けてもらえる教師・保護者であるように努めていきたいと思います。

地域の人からお礼の電話

先日、出張から戻ると私の机の上にメモが貼ってありました。読んでみると「地域の方から電話があり、高学年くらいの男の子が、信号のない交差点で渡ろうとして…」と書いてあり、“危なかったからお叱りのお電話だな”と勝手に判断をしてしまいました。読み進めていくとその子は横断し終わった時にこちらを向いて頭を下げてくれて嬉しくて感心したから電話をしたと書いてありました。私も今年、市内の２つの小学校の児童が私に横断し終わった時に丁寧にお辞儀をしてくれてとてもいい気持になり、２つの学校の校長にその旨を伝えました。７月に「停まってくれてありがとう」運動の指定校となりましたが少しずつですが「感謝の気持ちを伝える」という児童が増えてきてくれて嬉しく思っています。形だけでよいということではなく、人間として素敵な姿はどんどん広がっていってほしいと思います。